

今年度の特記事項

新型コロナウイルス感染症の影響は非常に大きく、収入に直結する在宅事業の実績は短期入所で約10%、通所介護で約14%の利用減となった。(千代田区による事業支援補助金により収支を維持することができた)

2021年1月に通所介護利用者1名、家庭内感染から新型コロナウイルス感染症陽性となり念のため1月11日(月)から、1月16日(土)までデイサービスを一時中止。検査対象者他全職員のPCR検査を実施し、全員陰性となったため、1月18日より再開した。

・コロナ禍でサポート隊の活動中止や行事の縮小などをせざるを得なかったが、オンライン面会や、ZOOMを利用した交流活動など「コロナ禍でも行える活動」を積極的に行った。

・地域住民に知っていただく活動としてSNSを積極的に活用し情報発信した結果、職員の中にも閲覧している者も多くいることがわかり、全職員とプラザ内の活動状況や法人の理念を共有することができた。

1 利用者サービスの向上

- ・通所利用者のサービス向上のため、希望者には週3回の入浴対応を開始した。
- ・スライディングボードなど福祉用具を導入し、職員・利用者の負担軽減を図った。
- ・機能訓練指導員を中心に機能訓練の時間を増やすことができた。
- ・サポート隊(ボランティア)活動は残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したが、サポート隊メンバーにお便りを発行し、利用者の様子を知っていただく機会を作った。
- ・昨年度に引き続き、千代田区認知症ケア推進チームに参加し区の施策と連動した動きに努めた。
- ・コロナ禍ということもありSNS、HPを利用し今まで以上に積極的なほほえみプラザの情報発信を行った。
- ・眠りスキャンや非接触型バイタル測定機器の導入など利用者が安心して過ごせる環境を整えた。

2 地域支援の定着 第三期指定管理(2019年度～2028年度)の遂行

- ・第三期指定管理(2019年度～2028年度)の二年度。千代田区東部における幅広い高齢者の活動拠点として、地域包括ケアの実現に努める予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年3月1日(2020年度)より7月19日まで多目的ホール・今川記念室の貸出を中止した。7月20日より、一部制限を設け再開。2021年1月7日発出の2回目の緊急事態宣言後は夜間帯の貸出を中止とした。
- ・一回目の緊急事態宣言中、介護予防事業は中止とし、宣言解除後は、「三密を回避」し、「飛沫の飛びづらい」、書道・絵手紙・太極拳に限定し活動を再開。二回目の緊急事態宣言後再び中止とした。
- ・感染拡大防止のため、正面玄関を閉鎖し感染拡大予防に努めた。
- ・夏祭りやラジオ体操会など岩本を会場としていた地域行事も軒並み中止となり、地域交流活動も制限されてしまった。
- ・子育て支援事業や食事サービス事業の拡充など、提案事業としていた事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で進展がなかった。

3 職員力の強化

- ・ケアカルテは記録入力システムとして定着。またケアカルテと眠りスキャンをショートステイに3台導入した。活用については次年度課題。
- ・非接触型バイタル測定機器の導入し、職員が安心して働ける環境を整えた。
- ・感染症拡大防止のため職員一人ひとりが対策をしっかりとすることで、予防だけではなく意識向上につながった。

4 組織力の強化

- ・事故防止検討委員会を中心に施設内のリスク軽減の方策を検討。今年度は薬に関する事故が多く、そのほとんどが確認不足に起因しており、確認方法など再徹底を行った。
- ・コロナ禍で多くの対面研修が中止となったが、オンライン形式の研修に変わったことで、各職員の都合の良い時間帯に受講することができるようになったことで、受講率は上がった。

5 財務状況の健全化

- ・各事業昨年度よりも利用実績向上を目指したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きく、目標稼働率をクリアしたのはグループホームのみで今までにない厳しい財務状況となった
- ・通所 76%⇒61.2% ・認知通所 42%⇒37.8% ・短期入所 87%⇒74.9%
- ・グループホーム 95%⇒97.8% ・ケアハウス 88%⇒84.2%